

地域を取り巻く状況の変化等について

1 地域を取り巻く状況の変化について

(1) 人口

我が国が本格的な人口減少社会を迎え、本県においても平成 17 年の国勢調査において人口減少に転じて以降、減少傾向が続き、今後も減少が予測されている。

平成 17 年から平成 21 年までの 4 年間で地域別にみると、県南地域は微増 (+1.7%)、鹿行地域は横ばい (+0.2%) であるが、その他の地域で減少し、県北山間地域 (△5.0%) で最も減少率が大きかった。

市町村別でみると、県南地域では、つくばエクスプレス沿線地域の守谷市 (+13.0%)、つくばみらい市 (+8.4%)、つくば市 (+5.9%) や常磐線沿線地域の牛久市 (+4.8%)、県北臨海地域では東海村 (+4.2%)、ひたちなか市 (+2.0%)、鹿行地域では神栖市 (+2.7%)、鹿嶋市 (+2.1%) が増加している。一方、県北山間地域の太子町 (△8.1%)、県南地域の河内町 (△6.4%)、稲敷市 (△5.2%) などで減少している。

このように、人口が増加した県南地域をはじめ同一の地域内でも、増加している市町村、減少している市町村がある。

(2) 広域交通ネットワークの整備

北関東自動車道については、平成 20 年 12 月に東北自動車道まで接続し、平成 23 年春には群馬県までの全線が開通する見込みとなっている。また、首都圏中央連絡自動車道については、現在、つくば中央 I C から稲敷 I C までが供用開始され、平成 24 年度の県内区間の開通を目標に整備が進められている (つくば中央 I C から西側の開通時期については検討が必要とされている。) 東関東自動車道水戸線については、茨城空港の開港と合わせ、平成 22 年 3 月に茨城空港北 I C まで供用開始され、平成 27 年度までに (仮) 鉾田 I C まで開通する予定となっている。

茨城空港については、平成 22 年 3 月に開港し、国際線では韓国ソウル間、国内線では神戸間の定期便が就航している。また、平成 22 年度内に中部線、札幌線の新規路線が開設される予定となっている。

つくばエクスプレスについては、開業以来、輸送人員が順調に伸びており、東京延伸の前提である 1 日平均 27 万人を 1 年前倒しで達成し、今後は東京への延伸が期待されている。また、常磐線については、平成 25 年度の東京駅乗り入れに向け、順調に工事が進められている。

港湾については、平成 20 年に日立港・常陸那珂港・大洗港を統合し、茨城港が誕生した。

このような広域交通ネットワークの整備の進展により、北関東三県や磐越五県、東京都、千葉県、埼玉県などとの近接性が高まっている。また、茨城空港の開港により、近県はもとより、国内外に開かれた交流拠点の形成を図っていくことが重要となっている。

(3) 多様な産業と科学技術の集積

本県の平成 21 年の工場立地状況は、件数で全国第 3 位、面積では全国第 4 位となっており、過去 10 年間の立地面積では 1,200 ヘクタールと他県を大きく引き離して全国第 1 位となっている。

また、大洗町や阿見町、TX 沿線などに大型商業施設の出店が相次ぎ、県内外からの多くの集客が図られている。

科学技術の分野では、つくばの研究集積を活かし、環境技術やナノテクノロジー、ロボット分野などで民間企業も参入した新たな研究開発プロジェクトが動き出している。また、東海では平成 20 年に大強度陽子加速器「J-PARC」が稼動し、今後は、つくばや日立地区と連携を図り、一大先端産業地域を形成していくことが期待されている。

農業については、メロンやコシヒカリ、常陸牛などの主要な農産物のブランド化を図り、平成 20 年の農業産出額は北海道に次いで全国第 2 位となっている。

このように、今後の地域づくりを支える地域の発展ポテンシャルは、さらに高まってきている。

(4) 交流の拡大

新たな観光スポットとして、袋田の滝の新観曝台や茨城空港ターミナルビル、大洗や阿見のアウトレットモールなどに県内外から多くの観光客が訪れている。

平成 21 年度の年間観光客数は、北関東自動車道等の整備進展による利便性向上に加え、地方部の高速道路において「休日特別割引」が導入されたことなども要因となり、はじめて 5,000 万人を超え、交流の拡大が図られている。

観光客を県外客・県内客別にみると、県外客は全体の 43%にあたる約 1,967 万人となっている。都道府県別では、最も多いのは東京都 (9.7%)、続いて千葉県 (9.4%)、埼玉県 (6.7%) の順となっている。なお、栃木県からの観光客が約 1.6 倍 (2,852 千人) となっており、北関東自動車道の開通効果が現れている。

高速道路の整備や茨城空港の開港により、北関東三県をはじめ千葉県、埼玉県、福島県、新潟県、兵庫県などの国内はもとより、中国、韓国など国外との結びつきが一層強まり、今後のさらなる交流拡大が期待される。

2 県内各地域における主な取組について

(県北山間地域・県北臨海地域)

- ・グリーンふるさと振興機構を中心に、ホームページ等による移住実践者の紹介・空き家等の情報提供、体験型教育旅行の受入などを通じ、定住・二地域居住や交流などの拡大に取り組んでいる。
- ・常陸太田市などでは、農業に関心のある首都圏在住の若者を中心にボランティアで農作業を手伝ってもらう「ワーキングホリデー」に取り組み、都市と農村の交流拡大を図っている。
- ・日立市では、廃校になった旧高原小学校を体験交流施設「たかはら自然塾」として整備したり、大子町では、旧県立大子二高に東京理科大学の研修センターを誘致するなど、既存施設等を活用した交流人口の拡大により、地域の活性化を図っている。
- ・常陸大宮市西塩子地区では、江戸時代後期の農村歌舞伎舞台「西塩子の回り舞台」を平成9年に約半世紀ぶりに復活させ、以降、3年に1度、地芝居やコンサートを行うなど、伝統・文化の保存・伝承や地域の活性化を図っている。
- ・常陸秋そば（常陸太田市）、あんこう鍋（北茨城市）、奥久慈しゃも料理（大子町）など、各地域で「食」によるまちづくりの取組を進めている。

(県央地域)

- ・水戸市をはじめ県央・県北地域では、水戸藩開藩400年記念「桜田門外ノ変」映画化による地域づくりを進めている。
- ・茨城空港周辺地域では、茨城空港の開港とあわせ、新たな名産品の開発や霞ヶ浦産品のPRを行うなど、広域連携による観光・交流の拡大による地域の活性化を図っている。
- ・笠間観光協会では、首都圏在住の若い世代を対象に、陶芸やガラス、石工などの体験やギャラリー巡りなどが楽しめるミニツアーを実施し、笠間ファンの開拓と交流の拡大を図っている。
- ・ねばり丼・黄門料理（水戸市）、いなり寿司（笠間市）、あんこう料理（大洗町）など、各地域で「食」によるまちづくりの取組を進めている。

(鹿行地域)

- ・行方市商工会では、なまず生ハム「湖ふぐ」や「行方バーガー」など、地場産の野菜・水産物を使った商品を次々と開発し、地場産品を活用したまちおこしに取り組んでいる。
- ・鉾田市などでは、メロン・トマトといった主要農産物のブランド化、高付加価値化の取組を進めている。
- ・霞ヶ浦周辺地域では、文化遺産である「帆引き船」を現代に伝えるとともに、観光資源として活用し、観光振興により、地域の活性化を図っている。
- ・鹿嶋市をはじめ鹿行地域では、プロサッカーチームと連携し、全小学校への巡回訪問を実施するなど、地域に根ざした活動を展開している。

- ・行方市の「井上・山百合の会」では、市民参加により約2ヘクタールの里山に約2万株のヤマユリを咲かせて観光資源としてアピールするなど、自然環境の保全と地域の活性化を図っている。

（県南地域）

- ・石岡市、小美玉市においては、廃線となった鹿島鉄道の線路跡にバス専用道路を整備し、民間バスを運行させる公設民営方式のバス高速輸送システム（BRT）を導入し、平成22年8月30日から実証運行が開始される予定となっている。
- ・石岡市では、旧朝日小学校を拠点とした都市・農村交流事業や、八郷地区の茅葺き民家の保存などにより、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげている。
- ・牛久市をはじめ、フィルムコミッション活動を通じたロケ誘致活動を積極的に展開している。
- ・霞ヶ浦周辺地域では、文化遺産である「帆引き船」を現代に伝えるとともに、観光資源として活用し、観光振興により地域の活性化を図っている。
- ・土浦市では、土浦城址「亀城公園」や石畳舗装などによる「歴史の小径整備」に取り組むなど、歴史的景観を活用したまちづくりを進めている。
- ・守谷市、取手市、牛久市においては、現代アートプロジェクトの連携などによる、アート体験を通じた地域づくりを展開している。
- ・カレー（土浦市）、まいんコロッケ（龍ヶ崎市）、焼きいも焼酎「湖山」（かすみがうら市）など、各地域で「食」によるまちづくりの取組を進めている。

（県西地域）

- ・桜川市真壁地区では、「真壁のひなまつり」の開催や、400年前から続く城下町の町割りや蔵、門などの歴史的建造物の保存を図り、兵船22年6月に県内初の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けるなど、歴史的景観を活用したまちづくりを行っている。
- ・古河市や結城市、桜川市のまちづくり団体がネットワーク化し、蔵を活用したまちづくりを進めている。
- ・下妻市の「花と一万人の会」では、鬼怒川河川敷の自然環境の保全や、地域団体と連携した「花とふれあいまつり」を開催するなど、水辺環境を活用した交流拡大の取組を進めている。
- ・畑地基盤整備等の推進や、梨の新品種「あきづき」の植栽を進めるなど、消費者ニーズに対応した産地づくりを展開している。
- ・常総市をはじめ、フィルムコミッション活動を通じたロケ誘致活動を積極的に展開している。
- ・七福カレーめん（古河市）、祝い鍋（坂東市）、うまかべすいとん（桜川市）など、各地域で「食」によるまちづくりの取組を進めている。